

令和4年度 西都市立都於郡小学校 学校関係者評価書

【学校の教育目標】「夢や希望をもち、進んで学び、やさしくたくましく生きる子どもの育成」

【本年度重点目標】 ○ 見える学力の向上 ○ 明るく楽しい学校生活の実現 ○ 心身の健康及び安全教育の充実 ○ 特別支援教育の充実

4段階評価 4:達成 3:ほぼ達成 2:不十分 1:改善を要する

評価項目		評価指標	教職員評価	成果・課題及び改善策	関係者評価	学校関係者評価コメント
見える学力の向上	日常授業の工夫改善	単元テスト平均90点以上、全国学力調査正答率・全国、県、市平均以上を目指す。	2.3	・令和4年度全国学力・学習状況調査の結果が、あまりよくなかった。私たちはもう一度、日常の授業の工夫・改善や各教科の系統的な学習の在り方について考え直す必要があると考える。具体的には、教務・学習部から提案されている「読み解き新聞ワークシート」の課題を児童にきちんと実践させ、見届けを確実に実施すること。文学的文章のあらすじや説明的文章の要約をまとめること。学力調査問題に機会あるごとに取り組ませることなどが挙げられる。 ・学力の向上を目指し、授業だけでなく、昼休み時間の補充指導や、家庭学習のやり直しを個別に行うなどしてきた。4月当初に比べ、少しずつ力を伸ばしてきていると思う。児童のためにも、個別指導の時間は減らし(休み時間を使ってしまうため)全体指導の中でできるだけ対応できるとよい。授業改善を日々続けていきたい。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を参観して、子供達がちゃんと学習に向かい合っていると思いました。 ・都於郡中学校の生徒の学力は高いと周囲からよく聞きます。小学校時代に勉強する習慣を先生方が指導してくれているおかげだと思います。ありがとうございます。 ・コロナで学校に行けなかったりした分の取り戻しに苦労している気がする。基礎からしっかりとってほしい。 ・全国調査の結果は非常に気になるところです。課題や対応の方向は整理されているようなので、具体的な対応をお願いしたいと思います。ただ、教育現場においてもメリハリは必要と思います。休み時間をつかうことには少し問題を感じます。また、タブレット授業についてはもう少し課題が記述されるべきだと思います。 ・児童が少ないので、先生方の数も限られている中でいろいろと工夫されていることと思います。自分の意見をしっかりと自分の言葉で伝えられるよう今後もよろしくお願いします。
		自分の考えをしっかりと表現する力の向上	2.5	・学習したことが結果としてしっかりと表れるように組織的な取組を継続していきたい。		
		全児童のICT活用能力の向上	2.9	・進みの早い児童に対して、タブレットやプリントを活用して学習に取り組ませることができた。		
	家庭学習と読書活動の充実	姿勢や聞く・話す力の向上	2.5	・話す力を高められるような取り組みや外部講師の活用ができなかった。 ・話す、発表する機会を意識して取り入れていく必要がある。		
		基礎基本の定着と思考力を高める家庭学習	2.6	・既習内容が十分に定着するように、繰り返し復習を取り入れていく必要がある。 ・全校で、漢字、計算力、音読の徹底から始めてはどうか。 ・家庭学習は、家庭の状況や協力、これまでの学習のやり方の定着具合によって指導が左右される。一年一年大切に指導していきたい。		
		各学級週1回の図書室利用、「家読」の取組	2.9	・学校全体を見たとき、「文字を読む」ということに関して学年相応の力が身に付いていないように感じる。読書の時間の他、音読に取り組む時間などにも、朝の活動で統一して実践してみてはどうか。		
地域と連携した教育活動の充実	外部講師の積極的・効果的な活用	3.3	・各学年の校外学習や体験学習、都小っ子祭りでの連携など、計画的に実施できた。コロナ禍により行事等ができなかったものもあるが、全体的なバランスを考えながら活動を精選し、連携した活動に取り組んでいきたい。			
明るく楽しい学校生活の実現	「当たり前のこと3ヶ条」の定着と基本的な生活習慣の育成	あいさつ・返事・整理整頓の向上・定着	2.6	・自分から気持ちのよい挨拶(先出し挨拶)ができる児童を、もっと増やしたい。 ・自分の持ち物を大切に、紛失しないように気をつける習慣をもっと徹底したい。 ・こちらから言えば挨拶をするが、挨拶の声や自主的な行動が学校全体でもっと活発になるとよい。 ・あいさつ等については、「表現する」「行動に表す」というようなことを形から指導する必要があるのではないか。	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつを元気にする子、小さな声の子と個人差はありますが、あいさつはよくしてくれると思います。 ・自分から積極的にあいさつをする子が中学校も含めて少ないと思います。あいさつに関しては家庭での問題と考えます。家庭内であいさつの大切さを教えていてもらいたいと思います。 ・あいさつをしてくれる子が増えた気がします。 ・保護者自由記述の所に書いてある「いじめがあるとよく聞く」という内容について、何らかの対応が必要ではないか。 ・学校と家庭の取組がかみ合わないと感じながら成果につながらないように感じます。ただ、アンケート調査では、児童の認識と保護者の認識にかなり差がある項目も多く、少し分析が必要だと思います。また、「いじめ」については、実態はどうか(保護者の不安、対策会議のあり方は少し見直しが必要と感じます。 ・朝の見守りの時などあいさつの声が小さかったり目が合わなかったりする子が多いと感じる。高学年ができてくると低学年も真似てできてくるのではないかと感じた。
		「早寝・早起き・朝ごはん」の定着	3.0	・規則正しい生活が送れるような手だてを考えることができなかった。		
	道徳科の時間の充実、規範意識・自主性・社会性の向上	全学級における道徳の授業の完全実施	3.5	・友だちのいいところを探す時間を作った。嫌な思いをした子に対して、積極的に声を掛けたり、クラスに呼び掛けたりしているが、なかなか改善できなかった。		
		きまり正しい生活態度の育成	2.8	・全職員での共通理解のもと、望ましい生活態度で学校生活を送れるよう指導していきたい。		
	いじめや差別のない思いやりの心の育成	何事にも進んで取り組む児童の育成	2.4	・コロナ禍だったので仕方ないが、異年齢で活動することが少なくなっている。高学年になるにつれ、学校を自分たちで動かしていくんだという自覚、責任感をもてるようにするために、縦の関係を少しずつ充実させていくとよいのではないかと。(例)異年齢集団での清掃活動、異年齢での交流活動等 ・児童の自主性に期待する部分と教え込む部分とをバランスよく実施していきたい。		
	いじめ不登校対策会議(すこやか会議・ケース会議等)を中心とした、いじめ・差別の根絶、人権教育の推進	3.0	・すこやか会議について、事例報告だけならC4thを利用すればよい。事前には書き込み、それについて討議するなど時間を有効に使いたい。共有は大切だが、一方的な報告に終わることが多い。			

心身の健康及び安全教育の充実	体力向上のための体育・日常指導の充実、健康意識の高揚	体力テスト全種目県平均以上の達成	2.3	・県平均に達していない項目が多かった。コロナ禍において、体力の維持、向上は今後の課題である。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み時間、外に出て元気に遊んでいますね。 ・「健全なる精神は健全なる身体に宿る」放課後や休日に外で皆で体を動かす事は時代的に難しいかもしれませんが、家族で公園等で積極的に出かけてもらいたいと考えます。 ・学校以外の部分で体を動かす機会が減っているのも実情であり、少人数で少年団も人が足りないと聞く。保護者の方々にも、子どもが体を動かす時間等を作っていく必要があると思う。やはり、ゲームが楽しくてなかなか動かない気持ちも分からなくはないが。 ・地方(いなか)の子供達は体力は県平均を上回っているだろうと思っていたので意外な結果ですね。何が要因なのか知りたいものです。 ・運動会や持久走大会などコロナ禍でもあり平日でもあったため、保護者や地域の方など見てくれる、応援してくれる人が少なかったので、地域の方や保育園など施設の方にも案内しては・・・と思った。
		健康的な生活の実践	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・はっきりとした理由もなく、不調を訴えて休む児童が見られる。保護者に、できるだけ登校させるようにするという共通理解を、何らかのかたちでお願いしたい。 ・健康を守ろうとする意識が高まり、食事や健康衛生の習慣など定着してきた。 ・家庭にお願いしなければならない内容も多いと思うが、学校で指導すべき内容はしっかりと行いたい。 		
	危険予測・回避能力の育成	「お(押さない)・は(走らない)・し(しゃべらない)・も(もどらない)」を主とした避難行動の定着、危険回避行動の向上	3.5	・避難訓練が計画的に実施でき、児童の危険予測・回避能力高まっている。今後も様々な場面を想定した訓練を計画し、訓練することで安全安心な学校を目指していきたい。		
	食に関する指導の充実	望ましい食習慣を身に付けた児童の育成	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・食育を通して、食べ物にはそれぞれ大切な役割があるということ、理解させることができた。 ・コロナ禍の中で、給食指導が十分にできない。家庭がすべきことを学校が担う必要性の是非も今後考えたい。 		
特別支援教育の充実	校内の特別支援教育体制の整備・充実と校内研修の実施	全職員の共通理解と積極的連携・対応	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級の担任や専科担当教員も、支援学級の授業を参観する機会をもち、特別支援教育の考え方に基づく指導の手立てや複数学年に渡る教科等の指導を見て学ぶことができるようにしたい。 ・支援員さんの動きについて、共通理解を図っておきたい。「1・2年生に中心につく」のか「支援学級の子が交流学級に来たときに重点的に見る」のか。あるいは、他の支援体制もあるのか。現在、自分の学級では、支援学級の子を中心に据えようとしている。 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な支援を必要としている子どもさんが増えているように感じます。目で見えるもの見えないもの、様々だと思いますが、私たちもお手伝いできることがあれば教えていただきたいと思います。
	保護者や地域への啓発	特別な支援を必要とする児童の保護者との相談の充実・合意形成、特別支援教育に関する話題の提供・啓発	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援に関する情報を全保護者へ発信する機会が増え、保護者も相談しやすく安心にもつながると思う。 ・特支コーディネーターを中心に組織的に取り組んでいきたい。 		
	関係機関との連携	関係機関を利用した児童観察、諸検査の実施、児童及び保護者へのフィードバック	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な児童の保護者にカウンセリングを進めることができた。 ・スクールカウンセリングが始まった。今後の充実に期待したい。 		